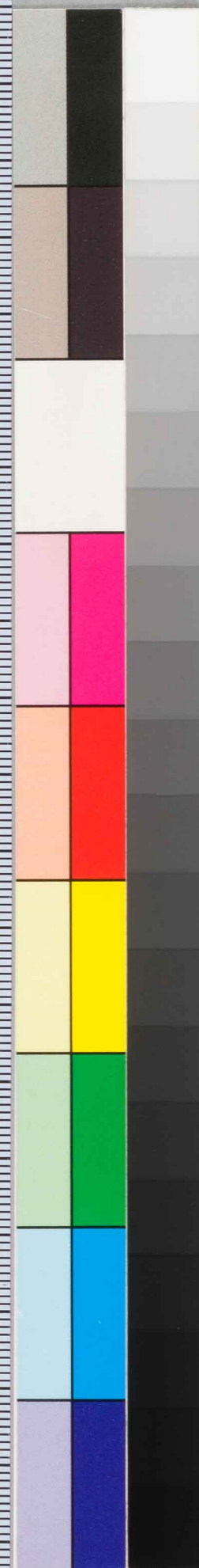


類證辨異全九集

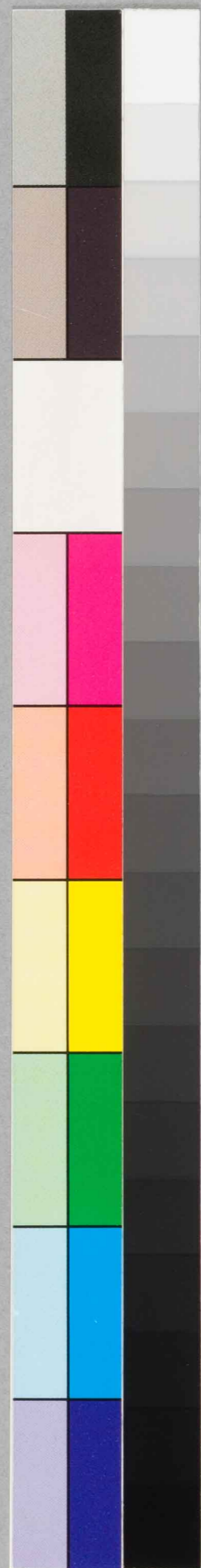
古活字板(寬永版)



研医会図書館蔵和漢書整理票 古活 12	
書名	類証并異全九集
撰・編・著	曲直瀬道三 編
記述・筆録	
原本年代	寛永年間?
再・復刻年代	
写記年代	
卷・冊数	全7巻、4、3、4、7巻欠 4冊
刊	字
形	態 縦 横
登録番号	原簿第 頁
備	記 筆本氏并贈

ケ7431





類證辨異全九集目錄

○卷之一

診脈榮衛之分別 定三部之位 七表之論

八裏之論 九道之論 七種之死脈

四時之平脈 四時之虛脈 四時之實脈

又虛實之一通 同等之脈 反常之脈

關格之脈 男女之異 主客伏匿辨

病內外之異 懷妊之脈例 新產之吉凶

小兒虎口之辨 原夢

五病在氣在血之分別 以潮作之時知五藏之病

諸病之惡候 醫者出入病家之法

四知之論 五藏之納證 五實五虛之論

潮

原

關格

又

及

反

治諸病專可賴胃氣說

兩腎二補分別

倉公三死之說

五勞之大體

治未病之說

六失之論

養生論

○卷之二

日用藥味功能樞機之論

石藥一種

草藥五十四味

木藥二十四種

獸藥一種

調合之指南

六陳

八新

十八反

禁鐵銅之藥

禁火之藥味

每月之禁物

合食禁

不與姓者藥種

五藏補瀉并苦欲

瀉藏府之藥種

藥毒多少分別

五味之用

五味之遺復

食前食後服藥之分別

藥氣藥味之分別

藥劑七情之分別

七方之論

十二劑之論

生熟之用例

藥根三停之分別

湯散丸之論

權衡銖兩之論

半秤之圖

大分小分之異

升合之分別

尺寸之定

東把之分別

煎藥生熟之分別

服藥間之食法

○卷之三

中風之論治

傷寒之論治

井同諸證之治例

痢病之論治

泄瀉之論治

瘧之論治

欬嗽論治

宿食內傷治方

虛損論治

積聚之論治

消渴之論治

水腫論治

脚氣論治

嘔吐噎膈翻胃之論治

翻

也傷  
病  
二示  
三示

秤  
衡

權  
衡

衡  
秤

○卷之四

脹滿之論治

心痛之論治

頭痛之論治

黃疸之論治

霍亂之論治

腹痛論治

淋病之論治

疝氣之論治

喘急之論治

痰飲之論治

氣之論治

秘結論治

諸熱之論治

痺之論治

痿之論治

下血之論治

腰痛之論治

脇痛之論治

溺濁之論治

遺溺論治

○卷之五

癩瘰論治

遺精之論治

吐酸之論治

痔之論治

汗之論治

欬逆之論治

鼻衄之論治

吐血之論治

眩暈之論治

癩瘰

癩癩之論治

諸毒之論治

建忘之論治

陰癩

陰癩之論治

脫肛之論治

腋臭之論治

眼目

眼目之論治

耳病之論治

鼻病之論治

唇口舌

唇口舌之論治

牙齒之論治

咽喉之論治

諸蟲

諸蟲之論治

癰瘡之論治

折傷之論治

溺水

溺水之論治

凍死治

斃死治

骨鯁

骨鯁治

竹木之刺治

自縊治

蛇傷

蛇傷之治

馬嚼治

犬咬治

湯火

湯火之治

漆瘡治

暴癩治

鬱證

鬱證之論治

中惡論治

○卷之六

婦人門之論

調經論

帶下論

全九集

目錄三

痿痺  
身痛  
手足  
痿痺

胎動之治

求嗣之論

調父母之論

姓者謹保

姓者脉例

察胎之法論

惡阻之論

胎動之論

姓者之浮腫

姓者下血

姓者傷寒

縮胎之治法

滑胎之法

十三神吉凶方位

月空方位之例

推婦人行年之法

臨產之調治

難產吉凶

四產之論

新產之脉

胎衣不脫

產後之謔妄

產後浮腫

婦人之治方

調經治

崩漏之治

帶下之治

寡瘡之治

雜證之治

癥瘕之治

陰門諸證之治

惡阻之治

胎動之治

子煩之治

胎死之治

妊腫之治

滑胎之治例

難產治

胎衣不下之治

血暈治

產後中風治

惡露不絕治

惡露不下治

產後腹痛治

產後腫脹之治

產後痢病治

產後遺尿治

下乳汁之方

小兒門之論

五藏虛實之病證

面證五藏之辨

眼色之分別

生時之調法

臍風

乳母之謹

變蒸之論

壽夭之相

雜說

痘疹

諸拜

積蟲之辨

腹脹之因

發搐

驚風

傷風

傷寒與痘疹之弁

吐瀉

欬嗽

全九集一

目錄四

呵欠

渴治

乳食之養時

口瘡

呵欠

雜證

不治證

小兒之治方

痘疹治

諸疳治

蟲治

脹治

驚治

風寒之治

吐瀉

瀉痢之治

欬嗽治

渴之治

癖積之治

雜方

○卷之七

灸治之樞要

灸穴尺寸定法

灸時可謹保之法

定髮際之法

令發灸瘡之法

淋洗灸瘡之法

每月禁灸之日

四季之人神

灸火之吉凶

正面之灸穴三針六針

背後傍側之灸穴三針三針

小兒之灸穴二名十

膏肓俞

患門穴四花穴

運氣之樞徑

五行之論

十干之論

十二支之論

六化之論

四時氣候之論

交氣之論

生成數之論

五音建運論

天地六氣之論

主氣之論

客氣之論

天符之論

歲會之論

同天符同歲會論

南政北政之論

太少氣運相臨之論

紀運之論

勝復之論

六十年客氣傍通之圖

六病論

治法之論

五行不及之時勝者來乘之論

六十年紀運之圖

考十干而知其運之圖

考十二支知當年司天之圖

識初氣交刻之論



全九集目錄畢

類證辨異全九集卷之一

診脉榮衛之分別

夫脉ノ一字ヲチスキトヨム其血スキヲカヨフ物ハ只氣ト  
血トノ二也サリナカラ氣ハ血スキノ外ヲウカシテカロク廻  
血ハスキノワコニヲトシツイテナガル、也其氣ヲ陽トキレテ  
キノミキト名ツク衛コレ也其血ヲ陰トヤメキノミキト名ツ  
ク榮是也氣ハ外ヲ廻人ヲアタメマモル血ハスキノ中ヲ  
ナガレテ人ヲウルホシハナヤカニスル物ナリ此氣血ハ十六  
丈二尺ノ脉道ヲ晝夜百刻ノ間二五十一ヘンメクル也サレハ  
診ノ一字ヲ取コ、ロムルトヨム候ノ字ヲウカガウトヨムナリ  
故ニ人ノミヤクヲ取テ診候ト云也其ユヘハ氣ノ往來血ノ  
流通ノ太過不及虚實遲速ヲトリコ、ロミウカ、ウナリ故ニ

診候ノ術ニ七表八裏九道ノ分別也

定三部之位

掌後ノ高骨ヲ關位ト定其身ノ寸ニテ一寸有リ魚際ノ穴ヨリ關位ノサカイマデ九分有リ是寸口トサタム關位ノ下ノキハヨリ一寸ノ間ヲ尺中ト定ルナリ此寸關尺ニテ五藏六府ノ虛實一身ノ安危三焦ノ通塞ヲ取コ、ロミ分別イタスナリ男ノ脉ヲハ左ノ手ヨリ取ハシメ女ノ脉ヲハ右ノ手ヨリ取初ヘシ寸口ノ脉ヲハイカニモ指ヲカロクシテウカ、イ尺中ノ脉ヲハ指ヲオモクシテウカ、イ關上ノ脉ヲハカロクヲモクナクヨキコロニヲシテウカカウヘシ然ハ寸關尺ノ三部ノ間其身ノ寸ニテ一寸九分アリ

七表論

○浮乳滑實弦緊洪ノ七ヲ七表陽脉ト名ツク

一浮脉ハオモクヲシテタツ又レハタラス指ヲカロクアケテウカガエハア、マリアル也臟中ニヒエツモリタルユエニオシテタラサル也榮中熱シタユヘニアケテア、マリ有ル也

二乳脉ハ指ノハラニテウカガフニ經絡ノ兩頭ニハアタレトモ中間ニハ、ツタクナシ血コリト、コホツテナカレス經絡ニミタス寸口ニアラハ管中ノタ、マリ血トシリ關部ニアラハ腹中ニ奢イテ來ナリ尺中ニアラハ小便ニウミ血出ルトシリヘシ

三滑脉ハ指ニテタツ又ルニ三部ノ間ニタ、マラウコカスコトクイカニモナメラカニシテト、コララサナリオモクヲセハカクレテス、マシリワカス血ヲクナカレツツイテ氣ハ

スクナクメクルトシルヘシ此脈ハ手足クタビレ小便赤ク  
シフル事ヲツカサトル

四實脈ハヲレテ尋ニモ絶セスカロクアクレハアテリアリ陽氣  
カクレテ内ニアリ脾ノ藏虚シレ不食レ手足ツカレテモノ  
ウキ事ヲツカサトル

五弦脈ハ指ニテヲスニタラスアクレハ餘リアリ弓ノツルヲヲ  
スニ似タリツ子ヨリハ少ハヤキ脈也肝木太過ニノ脾胃  
ヲ尅シ勞風ニヨリチカラヲトロヘ手足ヒイラキ皮毛カレ  
カシケタル事ヲツカサトル

六緊脈ハ指ニテ尋ニ三關通レ渡ルヲセハアテリアリ舉ハス  
スンテハヤクカタキ洪弦ノコトシカクレタル風氣陽邪ノホ  
ロオカシテ物ニクヒトロキヲツレヤスキ事ヲツカサトル

七洪脈ハ指ノハラニアタルコトイカニモ大ニアクレハアテリ  
アリナツキイタミキ足ウカヒ熱シ大腸通セズ大便結シ  
口ノウチカハキ身イタム事ヲツカサトル

### 八裏論

○微沈緩瀦遲伏濡弱ノ八ツヲ八裏陰脈ト名ツク

一微脈ハ往來イカニモカスカニアルガコトクナキカコトシ  
陽氣オトロ工羸ル敗血ヤマス小腸虚シテ骨髓カシカワ  
キ崩漏白帶ヲツカサトル脈ナリ

二沈脈ハ指ニテ尋ニ有ル様ニシテアクレハマツタクナシ臟  
腑ヒエ三焦ヲタカリ兩脇ノ間ニ氣フクレ手足時ニヒ  
ル也寸口ノ沈ハ腎ニ痰有關部ノ沈ハ氣三千カク心中  
痛ム尺中ノ沈ハ腰足ヲモク小便ニコリシケレ

三緩脈ハ往來少ヲツクユルヤカナル脈也四動ノ平脈ヨリ  
ハツツク三動ノ遲脈ヨリハ少ハヤシ手足イキレモタヘイ  
キツカイハヤシ腎間ニ氣アツテ耳鳴リ寸口ノ緩ハ背項  
ヒイラキ關上ノ緩ハ腹中ニ氣ムスホラツテノビガタク尺  
中ノ緩ハ冷氣結シテ夢ニ鬼ニシタカウ

四瀯脈ハ指ニテヲシ尋ニアルニ似テアケレハ全クナシイカ  
ニモウスクカロシカニテ竹ノカワヲケツルニ似タリシブリ  
ト、コホツテナメラカナラ又脈也腎ノ精汁ノツキタル脈  
也身ヲウルホス血カワキスクナクナル脈ナリ故ニ男ハ傷  
精婦人ハ敗血也懷妊ノ人ナラハ胎中痛ムコトアラシ  
五遲脈ハ指ヲオモクシテエタリ一息ノ間ニ三動ハカリ來ル  
ナリ往來キワメテラフシ腎虛ノヤスカラス寸關尺ノ間ニ

遲脈アラハ三焦ノ間ノ寒冷ヲワキマヘシルヘシ

六伏脈ハ指ニテ尋ニアルニ似テ呼吸定息ニツタキコトナ  
ク再ビ子シコロニサクリタツヌレハ三關ヲハナシサレナリ  
筋ノ下ヲカクレユクナリ毒氣三關ニトキフサカリ手足  
ヲモクヒユルナリ寸脈ノ伏スルハ督中ノ聚物也關脈ノ  
伏ハ腸癖アツテ泄瀉スルナリ尺脈ノ伏ハ食物消セスホ  
ソノアタリニ疝瘕アリトシルヘシ

七濡脈ハヲレテ尋レハアル様ニシテ指ヲ舉レハナシキカラ  
ヨワク五心イキレ熱シツツキサクメキ下焦ノ元氣ヒエキ  
ワマリ丹田カレカワキ骨蒸勞熱ヲツカサトル脈也

八弱脈ハ指ニテ尋ニムシリワタニサワルカコトシ手ヲカロ  
クレテハサクリオホエ手ヲヲモクシテハスナワキナシイカ

腸入キ  
イム  
イム  
イム

ニモヤハクトメス、マス産後ニ客風入來テオモテウツハ  
シ氣ヨハキ脉ナリ寸口ノ弱ハ陽氣虚シテ汗ヲノツカラ  
イツ關部ノ弱ハ胃ノ氣不足ノ中焦ヨハシ尺中ノ弱ハ  
陰氣絶シテ骨肉シビシヒイラキハタヘイキル、脉也

九道論

○長短虚促結代牢動細ノ九ツヲ九道ト名ツク

一長脉ハ陽也指ニテ尋ニ三關ノ間半ヲモツカダチノコト  
シ指ヲ舉シハ餘リアリ又寸關尺ノ本位ニ過タルモ長ト云  
一身ハ十八タ熱レヲキフシヤスカラス陽毒ノ藏中ニアル  
脉也三焦ノ熱トレルヘシ汗ヲ發メヤスキコトヲウヘシ  
二短脉ハ陰ナリ指ニテタツヌルニ寸關尺ノ本位ニオヨハ  
ケルヲ短脉トイフ也手足ツ、ロサムク腹中ニ氣ヲ生シ

三焦ノ氣フサカリ陰中ニ伏陽アリ臟中ニ宿食アルノ脉  
也三焦ヲ通瀉メ必ズヤスカルヘシ

三虚脉ハ陰也指ニテラシタツヌルニモタラスカロクアクルニ  
モタラスイカニモウツケタル脉也物ニヲトロキムナサワギ  
ノ心ホレヤスク血虚シテイキレ熱シタルコトヲツカサトル

三焦ヲ補益シテスナワキ安カルヘシ

四促脉ハ陽ナリ指ニテ尋ニキワメテハヤクノ關部ヨリスス  
ミ出テ合テ寸口ニ居スル脉也ツ子ヨリモ事ノ外ハヤク  
ノ一動ツ、ウキキレ有血斑点ヲナスノ脉也此促脉ハ次  
第二クワハリ増スレハスナワキ死ス次第ニシリツキ減ス  
レハカナラスイクル也

五結脉ハ陰也常ヨリモ少シヲツク來リサル聚テカヘル時ニ

一動留テ九十リ血十カレ通セス氣メクリ散セス積氣脾ノ藏ノカタワラニ生メ手足痛ミモタユル事ヲツカサトル六代脈ハ陰ナリ指ニテ尋ニ時々ニウコキウカシテツツイテヲトルカト思ヘハカエツテナシ脾氣風邪ニヤブラレテ魂魄クラシ又云五臟ノ内イツレニテモ一藏絶シ極テ呼吸ヲツカサトラサレカ故ニ脈其絶スル藏ニイタラスメ代脈ヲアラワス也絶セザル藏ノミカハルク動スルナリ故ニ或ハシハラク動シシハラクトマテルナリ

七牢脈ハ陰也指ニテ尋ニ則チナシ押テミレハ返テ有來ラヌユカサルカコトシ骨ノ間痛ミ氣イツカハシクメ骨ノ間ニ有八動脈ハ陰也ヲシテ尋ニ關部ニノミ有テ尺寸ニハナキカコトシ擧テウカカエハナシ其關部ニアル脈モユカス不來

シテ其所ヲハナレス手足ツカレテヨワク血痢ヲワツライ  
女ハ血クツレクタリツツラウ脈ナリ

九細脈ハ陰ナリ指ニテサクリ尋ニホツキイトスチノ指ニサワルニ似タリ往來イカニモホツシカタチヤセカシケテ足脛シビレ毛髮カワキ骨髓ニ痛ム腎ノ精汁モルコトヲツカサトル脈也

### 七種之死脈

彈石ノ脈指ニテ尋ニキツク物ヲヒツサクコトクニ聚リ來テヲシテモアケテモヲナシヤウナリ殊ニ息數ナシ是ハ腎絶ノ脈也カナラス死スルコトウタガイナシ

解索ノ脈ハ筋肉ノ上ニアツテウコキハヤクメ散メアツミル  
一ナク左右ノ尺中ニハカリアラワレテ指ノ下ニ散メアツ

テラズ是ハ五藏ノ精髓皆ツキ死セントスル脉也

雀啄ノ脉ハ指ノ下ニハヤク急ニツラナリ來テ殊ニ息數ナ  
レ尺ス、ミノミノシリツクコトナシ俄ニ絶メ暫ク見ヘヌヤ  
、又シクメ前ノコトクニ又キタル也是ハ只四五日ノイノ  
キナリ脾ノ臟ノ絶脉ナリ

屋漏ノ脉ハ指ニテラスニ極テツクメニ息ノ間ニ只一動十  
ト來リレハラクト、マニ屋漏ノレツクノコトク或ハ來リ  
或ハ留テ連續セザルニ似タリ是ハ胃絶メ穀氣ノツキタ  
ル脉也立所ニ可死

蝦遊ノ脉ハ皮毛ノ間ニ浮ンテツメヒ再ヒラコル能尋レハウセテユ  
キカタヲシラスヲコシアラワルルハヲツレツセタル事ハス  
ミヤカ也カハツノ水面ニアツンテタキマキニ水ノツクニ

詳カ  
ニヒラ

入テレハラク有テタキマキ水面ニノホリアラハル、ニ似タ  
リ是ハ脾胃絶メ神魂スデニサレノ脉也立所ニ可死  
魚翔ノ脉ハ皮肉ニ有テ寸口ハサタマツテウコカス尺脉計  
リ静ニツロクトウコクタトヘハ魚ノ又シク水面ニアツビ  
カシラハウコカズメ尾ハカリユルクツロクトウコクカタキ  
ノコトシ是ハ腎絶メ脉ナリ此脉アフハ六時ノ中ニ死也  
釜沸ノ脉ハ皮肉ノ上ニアツテユルクトメニエタルアツモノ、  
ウエラサクルニ似タリ是ハカナラス死スル脉ナリ  
右已上七表八裏九道ノ大略也及ヒ七種ノ死脉ヲシル  
スナラツノ詳カナルハ當流相傳ノ診候一紙ノ約術ニ有

四時ノ平脉

春ハ微弦

夏ハ微洪

秋ハ微浮

冬ハ微沈

右コレ四時ノ平脈ナリ但微ニメ弦ナリト云フコトハアラス  
イカニモウツクシクスコレ弦ノカタチノ有ルカト云意ナリ洪  
浮沈モ皆コレニナラヘ

四時ノ虛脈

春沈脈ヲアラワシ夏弦脈ヲアラワシ夏ノ土用ニ洪脈ヲア  
ラワシ秋緩脈ヲアラワシ冬浮脈ヲアワス素問ニ云至而  
不到是謂虛コノ句ノ意ナリタトハ早クツノ時節ハイ  
タリタシモ當季ノ脈ハイタラスノスキサリタル季ノ脈ヲア  
ラワスナリ是ヲハ當季ノ主スル臟ト其母ノ臟トヲカ子  
テヲキノフヘシ

四時ノ實脈

春洪脈ヲアラワシ夏緩脈ヲアラワシ夏ノ土用ニ浮脈ヲア

ラワシ秋沈脈ヲアラワシ冬弦脈ヲアラワス素問ニ云不  
到而至是謂實此句ノ意也タトハ未タ其時節ハイタ  
ラサシモ臟腑實スル故ニハヤトリコレテ來季ノ脈ヲアラ  
ワス是ヲ當季ノ主スル臟ト其子ノ臟トヲ兼テ瀉スヘシ  
又虛實之一通

春脈弦ニメツヨクチカラアリ夏脈洪ニメツヨクチカラ有リ  
秋浮ニメツヨクチカラアリ冬脈沈ニメツヨクチカラ有リ  
右四時旺スルノ藏太過シテ實シタルノ脈ナリ

春ノ脈ウツケヤワラカニシテ曾テ弦ノカタチナシ夏ノ脈ウ  
ケカイナクメ曾テ洪ノ形ナク秋ノ脈ウツケヨワク浮  
ノ形ナク冬ノ脈ウツケヨワク沈ノ形ナシ  
右四時旺スルノ藏不及シテ虚シタル脈ナリ



同等ノ脉

寸關尺ノ三部大小浮沈遲數同ク等シキハ寒熱解セザル  
コト有トイヘ凡陰陽和平スルノ脉也甚レト云凡必可愈  
變常之脉

人健ニシテ脉煩ハレク病人ノ脉平ニ長高キ人ノ脉短カク長  
クヒキキ人ノ脉長ク少年ノ脉老人ノコトク年々々々  
人ノ脉壯ニ肥タル人ノ脉浮大ニ瘦タル人ノ脉沈實ナリ  
右各平常ノ候ニラムク必ラス病アルノ脉也

關格ノ脉

寸口ヨリ升テ魚際ニ溢ル、是ヲ外關内格ノ脉ト云尺中  
ヨリ降ツテ尺澤ニコホル凡是内關外格ノ脉ト云ナリ  
右此關格ハ陰陽偏勝ノ脉也譬ハ陽ノ太過ノ陰ノ不及

十九時ハ魚際ニ溢ル、ナリ陽ノ太過ノ陰ノ不及十九時  
ハ尺外ニコホル、ナリ急疾大病ニ此脉ヲ得タラハ必危シ

男女之異

男ハ寅ニ生メ陽ナリ陽ハ火ニツトツテ炎上ス故ニ寸脉  
ツ子ニサカンニメ尺脉ハヨワシ

女ハ申ニ生メ陰ナリ陰ハ水ニツトツテ下流ス故ニ尺脉  
ツ子ニサカンニメ寸脉ヨワシ

右是男女ノツ子ナリタトヘハ陽ノ男陰ノ女ノ脉ヲ得タ  
ルコレ不及ナリ陰ノ女陽ノ男ノ脉ヲ得タルコレ太過也  
又男ハ右腎ヲ命門トシ女ハ左腎ヲ命門トス黎居士力云  
男ハ陽ナリ故ニ陰ヲ得テ生ス右腎ヨリ初ル是イノキノ  
初マル門ナリ女ハ陰ナリ故ニ陽ヲ得テ生ス左腎ヨリハ

陽  
陰

レテルコレイノ千ノ門ナリ男女トモニコヨリ生シハシ  
マレニヨツテ命門イフナリ

主客伏匿之辨

寸口ニ沈瀦微短ノ陰脈アラワレテ十動二十動ノ間ニモ  
シ浮洪ノ陽脈一動二動ナト交リ見ルハ客陰ノ邪太過  
ナル故ニ主脈カクレテ時々見レテ十動二十動ノ中ニモ  
沈微ノ陰脈一動二動ナト交リ見ルハ客陽ノ邪太過  
ナルカ故ニ主脈カクレテ時々見ルハナリ寸口ニ常ノコト  
ク陽脈見レテ時々一二動陰脈ノ交リ出ルハ本陽イマダ  
虚セザル故ニ邪陰ノホルトイヘトモカクレタタズム也尺中  
ニ常ノコトク陰脈見レテ時々一二動陽脈ノ交リ出ルハ  
本陰未虚セザル故ニ邪陽降ルトイヘ尺陰レタタズムナリ

右療治ニ專イル事也客邪甚ハダシウメ主脈カクル、時  
ハ主氣ヲ補ノヒ邪氣ヲ瀉スヘシ主脈イマダ虚セス客邪  
ヒツカニカクシ居ル時ハ客邪ヲ瀉シシリツケ少氣ヲ補フ  
ヘシ又左右ノ三邪トモニ一向ニ脈ウタサルヲハ雙伏トイ  
ヘリ一手ニ部トモニウタサルハ單伏ト云ナリ又寸口ニノ  
三見レテ一向ニ尺中ニ見レザルハ必ズ吐逆ノ氣アリ吐逆  
ノ氣ナクハ死スヘシ元氣絶シタル故也尺中ニ三脈見ハ  
レテ一向ニ寸口ニ見レサルハサノミクルシカラス元氣タ  
タレク有故也

病ノ内外ノ異

脈浮大ナル者ハ其病外ニ有沈細ナル者ハ其病内ニ有カ  
クノコトク陰陽ニテ内外ヲワキマヘ其上ニテ遲數ヲ分

別シテ寒熱ノ病トハサダムヘシ

懷妊ノ脉例

脉三部ニアラワレ動シテ産門ニイリハ十八タシキハ胎アル  
脉ナリ尺外ヲ産門トイフナリ

尺脉細滑ニシテ絶セサルハ胎アルノ脉也

左右ノ關ニ滑脉アラハ懷妊ト知ヘシ滑ハ多血ノ脉ナリ故  
ニハラメリ

陽中ニ陰脉アラワルハ女子ナルヘシ陰中ニ陽脉アラワ  
ルハ男子ナルベシ

新産脉ノ吉凶

既ニ産メ後脉緩滑ハ吉シ沈重ナルモヨシ沈細ニシテホナ  
ニツクハ吉ナリ

既ニ産シテノ後脉緩實大弦緊或ハ堅牢ハワロシ或ハ寸  
口ノ脉滿緊ハアレキナリ

小兒虎口ノ辨

一歳ヨリ三歳マテハ虎口ノ紋ヲ見ヘシ虎口トハ人サシ指  
ノ三ノ節ノ間ノハラノカタナリ



黃色ナル筋ハ平和ノ驗也

黑色ナルハ危シ急也

青紅紫ノ三色ハ病有ノ驗也

風關計ニ見ルハ治シ易シ

氣關ニイタルハ病深シ

命關ニイタルハ療治シカタシ

ヲオクハ死スルナリ

青筋ハ胎氣ノ受ル事不全驚キビクメクヘシ強ク青ハ卧メ安  
カラス薄ク青ハ腹痛ノ糞青カルヘシ

紅筋ハ驚ク病脾ノ藏ニ入ト知ヘシ深ククレナイ十ハ驚キ  
熱ノスクム薄ク紅十ハ痢イタミ不食シテ吐瀉アルヘシ  
紫十ハ筋ハ驚熱ト知ベシコク紫十ハ物ニ驚キハナヒニヨ  
イ十クヘシウスムラサキ十ハ腹底ヲ痛ミ吐瀉有ヘシ

原夢

怒ヲ夢見ルハ肝ノ盛實也○喜ヲ夢見ハ心ノ盛實也  
樂ヲ夢見ルハ脾ノ盛實也○ナキ悲ムヲ夢見ルハ肺ノ  
盛實也○恐ルヲ夢見ハ腎ノ盛實也○落ト夢見ルハ上  
部ノ虚ナリ○飛ト夢見ルハ下部ノ虚ナリ○火ヲ夢ミルハ  
陽ノ太過也○水ヲ夢見ルハ陰ノ太過也○人トアラツイコ

ロレ殺レツコナイツコナワルルト夢見ハ陰陽トモニ虚ス  
レハナリ人ノヲオクアツマルコトヲ夢ミルハ腹中ニ短蟲  
多キ故也人ト打諍ト夢ミルハ腹中ニ長蟲多キニ依也  
右是其人ノ夢ヲモツテ藏府ノ虚實ヲ知ヘシタトヘハ飽  
満ノイ子タル夜ハ夢ニ人ニ物ヲ與ヘ飢テイ子タル夜ハ  
人ノ物ヲトルト夢見ルナリ是ツノ證據也

百病氣ニアリ血ニアルノ分別

醫學發明ニ云夫百病ヒルハ甚シクヨルハシツカナルハ是  
陽ノ有餘ナリ即氣病テ血ハヤマサナリ  
百病ヨルハ甚クヒル静ナリハ是陰ノ有餘ナリ即血病テ氣  
ハヤマサナリ  
百病盡ハ静ナルハ是陰ノ有餘也即血病テ氣ハヤマサナリ

百病晝ハ發熱シ夜醒ルハ是陽氣自ラ陽分ニ旺スルノ病也  
百病夜ハツ、サムクシテヒルハコ、ロヨキハ是陰血ミツカ  
ラ陰分ニ旺スルノ病ナリ

百病晝ハサメシツカニノ夜中ニ發熱煩躁スル是ハ陽氣ク  
タツテ陰中ニヲキイル名ツケテ熱入血室トイフ

百病ヨルコ、ロヨクシテヒルハ甚ダツ、ロサムキハ是陰氣  
ノホリ溢テ陽ヲオカスナリ

百病ヨルヒルトモニ發熱煩躁スル是重陽ニシテ陰氣ナシ  
スミヤカニ其ノ陽ヲ瀉シ急ニ其陰ヲ補ヘ

百病晝夜トモニツツロサムキハ是重陰ニテ陽ナシスミヤカ  
ニ其陰ヲ瀉シ急ニ其陽ヲオギノフベシ

右諸病ヲ治スルニ脉ヲワキテハ病ヲアキラメナク其上ニ

此血氣陰陽ノ分別ヲ詳ニセハ治セスト云コトナカラシ

潮作ノ時ニテ五藏ノ病ヲ知ヘシ

藏氣法時論ニ云肝病ハ平旦ハシツカニ申ノ刻ハ甚シク夜  
半ニシツカナリ

心病ハ日中ニハココロヨク夜半ニハ甚ク平旦ニハ静ナルヘシ

脾病ハ戌ノ刻ニコ、ロヨク日出ニ甚ク申ノ刻ニシツカ也

肺病ハ申酉ノ刻ニコ、ロヨク日中ニ甚シク夜半ニシツカ也

腎病ハ夜半ニ快ヨク丑未辰戌ノ刻ニ甚ク申ノ刻ニ静也

右是相尅相生ノコトワリナリ

又云肝病ハ丙丁ニイユ丙丁ニイヘサレハ庚辛ニツヨシ庚  
辛ニ死セサレハ壬癸ヲタモツテ甲乙ニラクヘシ

心病ハ戊己ニイユ戊己ニイエサレハ壬癸ニツヨシ壬癸ニ

死せサレハ甲乙ヲタモツテ丙丁ニヲクヘシ

脾病ハ庚辛ニイユ庚辛ニイユサレハ甲乙ニツヨシ甲乙ニ

死せサレハ丙丁ヲタモツテ戊己ニヲクヘシ

肺病ハ壬癸ニイユ壬癸ニイユサレハ丙丁ニツヨシ丙丁ニ

死せサレハ戊己ヲタモツテ庚辛ニヲクヘシ

腎病ハ甲乙ニイユ甲乙ニイユサレハ戊己ニツヨシ戊己ニ

死せサレハ庚辛ヲタモツテ壬癸ニヲクヘシ

又云肝病ハ夏ニイユ子ノ火母ノ賊邪ノ金ヲ制スル故也

夏愈ガレハ秋ニ甚シ子ノ火休メ賊邪ノ金秋ハ旺スル故也

秋死せサレハ冬ヲタモツ賊邪ノ金休メ母ノ水旺スル故也

春二十リテヲク肝木自ラ其位ヲ得カ故ニヲク九十リ

右此肝病ニテ餘藏ノ病ヲナソラヘテ知ヘシ

諸病之患候

凡病者足ノコウ足ノ裏ハレ身重ク大便タモタス眼ノヒトミ

ヲ轉ゼス身ノワル臭ハ皆死スヘシマカフラヲチ入目鼻

耳口黒ク面白クタワコトツキ又一向ニ物イワス口ノマ

クシ入ハ皆危シ

久病ニ兩ノ頬赤キハ凶

足膝ハレフクレ

面テハ赤ク眼ハ白シ

下ナコヒカリナク

ハクキクロク

唇アラク身ヒヘシビリイハリシ

食物ヲミテウシロムク

口ヲアキハツテ息キスクム

身體ハレ小便秘澁ス

面テ青ク目黄ニ

面テ先青クノ後ニ黒ク

鼻ノ下ノ人中アトナク

衣ヲナテ床ヲサクル

髪スクミアサノコトク

ウナシノスキノヒ

手ノ内ニシワナク

手足ノ爪青ク黒ク

セホ子ヒイラキ腰イタミ

面テ黒ク目白シ

唇コガレハレテ青ク白シ

右此病證多クハ必ス死ヘシ

醫者病家ニ出入スルノ法 醫工與患者之事上

凡醫者未タ病家ニイタラズソ先口ヲス、キ手ヲ洗ヒ天ニ  
アヲイテ祝スヘシ門ノマシ中ヲトヲリ立ヘカラス坐スル  
時カベニヨリカ、ラス卧、キ帶ヲトクヘカラス衣裳ヲ口  
ノ上、テヲオウヘカラス嬉事ノ念ヲオコスヘカラス貪欲  
ノ心ヲ生スヘカラスツ子ム心ニクム心ヲ生スヘカラス飲  
食アラハ必ス我ガイキニテ吹テ其後用ヘシ

古語ニ云醫ハ不入於刑官ノ家ニ藥ハ不療於不仁ノ病

ヲトアリ然ハ刑戮ヲ專ニソ慈悲ノナキ者ニハ天道ヨリ  
大病ヲノツカラキタル故ニ醫者モ出入スヘカラス藥モ  
又因果ヲモツテ生スル病ヲハ治シ得サレナリ

四知之論

神聖工巧望聞問切是ヲ醫經ニ四知トイフ

夫肝心脾肺腎ノ五藏ウチニキム時ハ即青黃赤白黒ノ五  
色面テニテラワル面ノ色ノ青ハ腹中ノ痛ミナリ面色紅十  
ルハ腹中ノ熱也面ノ色黃ナルハ脾ノ藏ノ氣ヨクナリ面  
ノ色白ハ腹中ノ寒也面色黒ハ腎氣ノヤフル、ナリ神氣ノ  
不足ナルハ酒ヲノマズメ醉ルカコトク心ニ愁ヘスメウレフル  
ガ如シ手ノ節ア、レ指ノ間スキタル者ハ病ヲ得テ遲ク愈ル也  
凡カクノコトクミル所ヲモツテ内腹ノ病ヲ知ラ望トイ、神

トイフ

夫五藏ウチニアツテ五聲ヲ生ス歌哭呼笑呻是ナリ五音  
ハ五聲ヨリイツ宮商角徵羽是ナリ然レハ病者ノユエヲモ  
ツテ其腹中ノ病ヲシル譬ヘハ哭スルハ肺ノ病トシルスハ  
ナタリ鼻ヒル者ハ肺ニ風アルトシレワラツテヨタレ多ハ脾ノ  
病トシル怒リヨハツツテ涙ノ多ハ肝ノ病ナリ多ク唾ヲ吐キ  
ニヨフハ腎ノ虚損ナリ汗出テタワコトツクハ心ノ病ナリ聲  
ノカロキワ氣ノヨワキナリ聲ノヲモク濁ルハ風氣ノ痛ミナリ  
一向ニ聲ノタレ又ハ肺ノ病也聲ノ急ナレハ神ノ衰ル也聲  
ノ塞ルハ痰ノシワサナリ聲ノフルノハヒエ也聲ノムセフハ氣  
ノ不順也アエクハ氣ノイツカハシキナリアクヒ多ハ其人倦  
ルナリ

右カクノコトク病者ノ聲ヲ以テ藏府ノ病ヲシル故ニ是ヲ  
聞トイ、聖トイフナリ

夫五味ハ口ニイリ胃ニヨサマレトイヘ此是ヲトロカシコナノ  
脾ニツタセハ脾則チ是ヲ五藏六府ニ散スル也五藏チ亦タ  
ツノ味ニヨツテ是ヲウクルナリ肝ハスキヲコノム心ハニカキ  
ヲコノム脾ハアマキヲコノム肺ハ辛ヲコノム腎ハ鹹ヲ好ム  
右如此病者ノキライコノム味ヲトイワキマヘテ五藏ノ病ノ  
發リ所ヲ知ヘシ又病者常ニコノンテ何物ヲ食シイツレノ  
事ヲナシイツレノ日病ヲウケイカヤウニヤミハシメタルトクワ  
レクトイ尋テ病ノミナモトヲ知ヲ問トイ、エトイフ

以上三術フツクシ其後脉ヲウカ、イ虚實ヲワキマユニ十  
四道ヲ分別シ陰陽寒熱ヲアキラメ生死吉凶ヲサタムルヲ



診候ノ術トイフナリ

右脉ヲウカガウコトハ神氣ヲシツメ呼吸ヲ定メ酒ニヨワス  
シテ取ヘキナリ脉ヲタシカニシテ藏府ノ病ヲワキマエ生死  
ヲシルカ故ニ是ヲ切トイイ巧トイフナリ

五藏ノ絶證

肝絶メハヲモテハレ青ク黒ク舌マカリアヲク手足ノカ弱ク  
目シイテ涙多シ

心絶シテハ面ツ、シニ黒ク肩息シ目見ハリ手ノ内ノシワ失  
タワコトツキ身熱シテモダユ

脾絶シテハ臍ハレ足ノ甲ハレ面黄ニハレ大便ノタタルヲシ  
ラス膚溢リ唇ハレ、

肺絶シテハ口鼻ヨロイキイテテ必ス唇ソリシワナク皮毛

コガシ爪カレ、ナリ

腎絶シテハ面黒ク齒イタミ目シ井汗出ル事水ノコトク腰  
ヲモク皮肉ヤワラカニ髮カレ、ナリ

右久病ニ此證アラワレハ必ス死スヘシ

五實五虚ノ論

脉ノ盛ナルハ心ノ實皮ノ熱スルハ肺ノ實腹フクレカタキハ  
脾ノ實ニ便通セサルハ腎ノ實目クラクモダユルハ肝ノ實  
右五藏ノ實シキワ、ルナリモシ藥ニテニ便漸ク通レ腹ヤ  
ワラカナルハ生ルコトモアリ

脉ノホソキハ心ノ虚皮ノヒユルハ肺ノ虚鼻口ノイキクサキ  
ハ肝ノ虚ニ便タモタスクダレハ腎ノ虚飲食一向ニラサマ  
ラサルハ脾ノ虚ナリ

右五藏ノ虚シキワテ九十リモシ薬ニテ少シ食事モラサマリ  
二便モヤウヤクトマラハ生ヘシ

諸病ヲ治スルニ專皆ノ氣ヲユ、ロムヘキノ説

夫薬ニテ病ヲ治スルニ其薬タキマキスクニ其病ノ所ニユ  
クコトナシ先胃ニ入テ變化ノ漸ク病ノ所ニユク譬ヘハ病ヲ  
ミワケ脉ヲトリアテ必効ノ薬ヲノマスルニ効ナキハ胃氣虚  
シテ薬カヲ運化セスイタツラニ二便トナリクタルナリ其時  
ハ本病ノ薬ヲオキ胃ノ氣ヲ調テ本病ハ減ゼストイフトモ少  
食事ノ心アラハサテハ胃ニチカライトキタルト心得テ本病  
ノ薬ヲ用ヘシツレニモ胃ヲ助ル薬ヲ少ツ、加ヘシ

兩腎ニ補ノ分別

左腎ハ水ニ屬シ右腎ハ火ニ屬ス故ニ虚スレハ水スクナク  
ナリテ身ノウチ乾キ命門虚シテハ下焦ノ陽氣衰ヘテ小便  
タモタキカタク精氣モレ安シ然ハ世ニ房事ヲツ、シミ食味  
ヲウスクトタシナム物ハ誠ニ、レナリ故ニ精血虧損シ相火  
タカブリ旺メ虚煩癆瘵嗽血等ノ病ヲ發ル故ニ丹溪ハ補  
陰ノ説ヲ明ニシ左腎ノ水ヲ補フ古方ノ補薬多右腎ノ相  
火ヲオキノフ但シ世人ノ病火旺スルモノ十人ニ九人ナリ  
火衰ルノ病ハ百人ニ二三人モナシ

倉公三死ノ説

病ニ薬ヲ服スル事ヲウケサルハ一ノ死ナリ  
巫ヲ信メ醫ヲ信セサルハ二ノ死ナリ  
身ヲカロンシ命ヲ薄シツ、シマサルハ三ノ死ナリ  
右如此ノ輩ハイテ薬ヲ與ヘ療治ヲナスト雖モ効ヲ得難シ

五勞之大體

久ク物ヲミレハ血ヲ破リ心ヲ勞ス又シクフセハ氣ヲヤフリ  
肺ヲ勞ス又シク座スレハ肉ヲヤフリ脾ヲ勞ス又シクタテハ  
骨ヲヤフリ腎ヲ勞ス又シク行ハ筋ヲヤノリ肝ヲ勞ス衍義  
ニ云心ハ大ニ用ヘカラス大ニ用ユレハ即竭形ハ大ニ勞ス  
ベカラス大ニ勞スレハ即斃ス又云一心ヲ以テ極リナキノ  
事ニ對セハ亦勞セサランヤ

未病ヲ治スルノ說

言語ヲツ、シミ飲食ヲ節シ風寒ヲフセキ形ヲ勞セス心ヲ  
ツクサズ房事ヲトククス

右是未病ヲ治スルノ大道ナリ丹溪ガ云ツレ病アツテ後治  
療センヨリハシガレ病ナキノサキヲ攝養センニハト又肝ノ

病ヲミテ脾ニツタエンコトヲ知テアラカシメ脾ヲスクヤカニ  
ス是モ未病ヲ治スルノ一道ナリ

六失ノ論

醫ヲ信セサルニ失シ療治ノ遲ニ失シ醫ヲエラハザルニ失ス  
已上三ハ病者ノトカナリ

病ヲ知サルニ失シ藥ヲシラサルニ失シ詳カナラサルニ失ス  
已上三ハ醫者ノトカナリ

右六失ノ内一モ是下ラハ病イエガタシ

養生ノ論

衍義ニ云養生ノ道多シト雖トモ約メ是ヲイフニ其術三  
アリ一ニハ神ヲ養フ二ニハ氣ヲオシム三ニハ疾ヲフセク  
神ヲ養フトハ智惠ヲサリ貪欲ヲメツシ七情ヲワスレ諸事

ラステ、恬澹虚無ニシテ眞ヲマツタフスルヲイフナリ  
氣ヲ惜ムトハ元氣ヲタモキ精ヲモラサス眼耳鼻舌身意ヲ  
悉ワスレ識界ヲムナレクスルヲ云フナリ  
疾ヲ防クトハ飲食ヲ節シ温涼ニカナヒ四立ニ至ニ二分ノ  
八節ニ虚邪賊風ヲツ、シミシイテイ子シイテ甘ムヘカラス  
右各、イカニモヌヤスク行イヤスケルトモ世ニ行フ者マレ  
ニシテオコナイカタシト思ヘリ嵇康カ云豊歳ニハ病多ク飢年  
ニハ疾少ト誠ナルカナイツワリナラス關中土地ノ俗ハヨロ  
ツ乏キニ依テ食味ウスクメ其人病スクナク命長シ江南嶺  
表ハ諸事ユタカニ充滿ノ山海ノ珍物ツナワラスト云フ事  
ナシ故ニ其人病多クメ大死ヲナス遊官メカレコニイタル  
者モ其豊ナルニ逢テロヲ恣ニシテ疾ヲ生ス

右是ニ習テイツクニテモ慎ムベシ故ニ古語ニ云病ハ口ヨリ  
入ト道林カ云食スル時カタルヘカラス語レハ骨背ヲ痛ム  
又云フシテ多ク言ヒ笑ノヘカラス又トハ五藏ハ鍾ノコト  
シ懸ラサル時ハ聲ヲ發スヘカラス

又云ユク時カタルヘカラスカタラハ是ヲト、ムヘシカタリナ  
ガラユク時ハ氣ヲ失ス

又云朝トクヲキテハ專ヨキ事ヲイフヘシ晨ニ空腹ニシテ錢ヲ  
カズユヘカラス

又云食事ハ少ツツサイク用ヘシニハカニ多ク用レハ消レ  
カタシ

又云食スル毎ニ諸肉ヲ重子用ヘラス能飯ヲ食シテヤ菜ヲ  
少用ヘシシカラサレハ百病ヲ生ス

三子  
津液  
通ス

又云飽満シテ即卧ハ消セスレテ積聚トナリ

又云食シ畢ラハ手ニテ面ト腹ヲサスレ津液ニ流通ス

又云暮ニ卧ス時常ニ習テ口ヲ閉ヘシ口ヲ開クハ氣ヲ失シ

邪患イル久ク消渴ヲ煩フ又血色ヲ失ス

又云膝ヲカカメテツハサマニ卧ハ人ノ氣力ヲマヌ

又云凡子ムラハ先心ヲフサレメテ其後眼ヲフサレメヨ一

夜ノ中ニ五度トコガヘリヲセヨ

又云咳唾スヘカラス亦ツワキヲトクハクヘカラス手足ヲ

モク背イタム

又云ウエタ九時ハカシコマツテ小便シ飽満ノ時ハ立テ小

便スヘシ是ヲ慎メハ無病ナリ

又云飽満ノハ熱ヲヲフヘカラス飢テハ湯ヲアブルトナカレ

又云冬至ノ日ハ人ノ來リ問フコト有ハ答ヘヨ自ラ物イ

フヘカラス

又云ツ子ニ心ニ不足ナリト思フフ有ルヘカラスモシ不足

ナル心ヲコルトモ自ラ是ヲオサヘヨ人トメタル事ヲシレ

ハ天道ヨリ其祿ヲオクルナリ

庚桑楚カ云聖人ノ聲色滋味ニヲケルコト性ニ利アル時ハ

コレヲ取り性ニ害アル時ハコレヲスツコレ全性ノ道ナリ

玉機微義ニ云六月ハ未ニ屬ス土大ニ旺ス土旺ス九時ハ

水衰フ又腎水ノ母ハ肺金ナリ腎水ノ不足ヲハ肺金コ

レヲ補助ス故ニ古人ハ五六月ハ獨宿淡味ス金水ノ二

藏ハ火土ノ旺ヲキラフ

又云十月ハ亥ニ屬シ十一月ハ子ニ屬ス陽氣トナク

テ真元ヲ養フ來春發生スヘキノモトヲナス此ノトキ房  
 事ヲツ、シミ元精ヲソコナハザレハ根本サカンニシテ氣  
 カルガルシク浮ハイツクンツ温熱ノ病アラン  
 養生ノ書ニ云暮ニ飽食スルコトナカレ  
 又云湯ヲアビ髮ヲアラテ風ニアヌルヘカラス  
 又云トモシ火ヲカ、ケテ燄事ヲオクスヘカラス  
 又云フシヲワツテトモシ火ヲト、ムヘカラス

類證辨異全九集卷之一終

